



撮影：北ウェールズ、カナーヴォン

誰かに話したくなるハロウィンの由来と、あれ？そういえば…

ハロウィンってどういう意味？

今年ももうすぐハロウィンですね。朝日新聞の調べによると盛り上がっているのはまだ少数派のようですが、その少数派の盛り上がりがすごい！そもそもハロウィンってどういう意味で、なぜ10月31日なのでしょう？ハロウィンはハロhalloとウィンweenの2つの部分から成り立っています。ハロ11月1日のカトリックのハロウhallow（万聖日）のこと。ウィンはイヴeen, eve（前夜）。11月1日の前夜ですから10月31日というわけ。万聖日前夜祭であって、間違ってもかぼちゃ収穫祭ではありません。

もとはアイルランド土着のお盆、サーウィン祭

昔々、アイルランドではSamhainの祭日がありました。サムハインじゃありません。サーウィンと読みます。この神さま、なんと死神。秋分と冬至の間の頃、いよいよ刈り取りも最後の頃、すっかり夏は遠くなり、あたりは冬の気配。夏草を食べて肥えた牛たちも山の放牧地から下りてきます。そのゆく先は…屠殺場。昔は人間だって生き残りに真剣です。次の春まで十分な食べ物が保存できなければ生存の危機。すまないけれど、この牛たちはあの世に送ることになる…その魂をサーウィンが迎えに来る…サーウィンのお伴をして向こうからご先祖様も帰ってくる。そんなふうにしたので、あの世とこの世の間の扉が開くとき、つまりお盆のようです。

キリスト教の超優秀なマーケター&セールスマン

カトリックはこのサーウィン祭を禁じるのではなく、せっかく盛り上がっているのだから活用しよう、と万聖日の前夜祭に転用しました。わかってますねえ。いますでにある盛り上

がりを否定して、新しい盛り上がりゼロから作るのは至難の業。いまある盛り上がりを利用するに限ります。キリスト教が厳格な一神教だなんて、まさか。宣教師は超優秀なマーケターとセールス集団。先遣セールス部隊は土着の信仰を取り込むのが実に上手です。土着の次は教会の手を離れた商業化。今は子どもが「イタズライヤならおやつ頂戴」（Trick or treat!）なんて行儀の悪いことを言っておどろかしています。これはアメリカに渡ってからのこと。

ウケるお祭り、ウケないお祭り

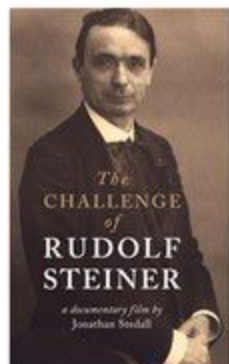
意外なことに、イギリスではハロウィンはあまり存在感がありません。この時期一部で盛り上がるのがガイ・フォークス・デイGuy Fawkes Dayです。1605年、カトリック過激派のガイ・フォークス一味がジェームズ1世を狙って国会議事堂に沢山の爆弾を仕掛けました。ところが密告によりあえなく露見、ガイ・フォークスは火あぶりに。この顛末を再現するお祭りがボンファイア・ナイトBonfire Nightです。ガイ・フォークスに見立てた藁人形を市中引き回したのち篝火で焼くというおだやかでないもの。同時に花火をぼんぼん上げるのですが、これが日本の花火大会に比べると実につつましくて。しかも外はもう寒い…。あるボンファイアナイトのこと。私の隣に親子連れがやってきました。お母さんの手をしっかりと握りしめた4歳くらいの少年は天使のような愛らしさ。その子が燃え落ちる藁人形と薄暗い花火を見て戸惑うような、泣き出しそうな顔をしたのです。あの顔は忘れられません。子どもが戸惑うようなお祭りでは、海外輸出するのは難しいでしょうね。

★通訳道場メンバー紹介★ 見た目エレガント、中身は男前 中川ルナさん

どんなに仲が良い友達でも、一緒に旅行に出かけると3日目ぐらいでうんざりしてくるといいます。でもルナさんとだったらいつまでもうんざりする気がしません。いつも快活でご機嫌、サバサバ男前な上にとても聞き上手で、歩く空気清浄機のように。一緒にいて本当に心地良いんです。それだけセルフコントロールに長けておいでなのでしょう。誰もが知る大手IT企業で営業&社内通訳者としてマルチにご活躍なのも頷けます。★なんでもお料理がお好きとか。冷蔵庫満杯だった食材がお料理になったかと思うとあっというまにお客様の胃袋へと消えていくのが嬉しいそうです。…そういう境地もあるんですねえ…★ご縁のきっかけはオランダ、日本で活躍するダンナさん、ケン先生（精神科医）の講演会でした。日本の精神医療の問題は多量の投薬と長期入院。オランダのホリスティックな精神医療のお話はいつも大きな感動を生み出しています。私は聴衆の中にルナさんがいらしたとは知らず通訳をしていました。近い将来パトントンタッチしましょう。楽しみにしています。



★イベント報告★ 映画「ルドルフ・シュタイナーの挑戦」ライブ同通上映会



この映画はBBCドキュメンタリーの名手、ジョナサン・ステドール監督がシュタイナーの視点に出会って生きる喜びを取り戻した人々を訪ねたもの。日本語字幕を作りたい、と連絡を取り始めました。字幕制作に先立つお披露目上映会を企画したところ、1日でFBイベントの「興味あり」が400を超える勢い。驚きました。おかげさまで7月24日、8月26日の2回合わせて70名を超える方にご覧いただくことができました。私たちのライブ同通はちょっと変わった方法で、会場ではオリジナルの英語と背景音を流し、同時通訳で片耳に日本語を配信します。英語の音を楽しみつつ日本語で意味を確認、動画も観られると喜ばれました。字幕を見ていると動画が楽しめない、吹替ではもとの語り口が消えてしまう、というジレンマに小さな突破口が開いたようです。あら？こうなると予定通り字幕をつけていいものか…

★おススメ★ これからやっぱり英語が大切、って本当？



聞いたことありませんか？

「これからの社会人に英語は不可欠。」「日本人は世界で一番英語下手。」

「英語ができると給料アップ。」「女性は英語が好き。」

どれも煽りです。よく注意して観察してください。そう言っているのは英語教育関係者ではありませんか？お蕎麦屋さんが「みんなお蕎麦を食べなくちゃ」と言っているのと同じです。データからは英語の出来不出来は給料に関係なく、仕事で英語を使う機会も増えず、学習人口も大して増えていないことがわかります。さすが世間のハラは賢い、英語蕎麦屋の一枚上を行っています。あなたがすでに専門の仕事を手に行っているなら、半端な英語に手を出すより、その専門を極めることに時間とお金を使うようおすすめします。一流の専門家にふさわしい通訳・翻訳はお任せください。あぶち取らず、二兎を追うものは一兎をも得ず、餅は餅屋、ということです。